






ばらと教育のまちをめざす
全国に誇れる学校教育

福山市学校教育ビジョンⅣ

小中一貫教育
の
創造

福山市教育委員会

目次

策定にあたって	・・・・・・・・・・	1
福山市学校教育ビジョンⅣ の概要	・・・・・・・・・・	2・3
ばらと教育のまちをめざす「全国に誇れる学校教育」		
 I 確かな学力	・・・・・・・・・・	4
 II 豊かな心	・・・・・・・・・・	6
 III 健やかな体	・・・・・・・・・・	8
IV 力量ある教職員	・・・・・・・・・・	10
V 市民から信頼される学校	・・・・・・・・・・	12

策定にあたって

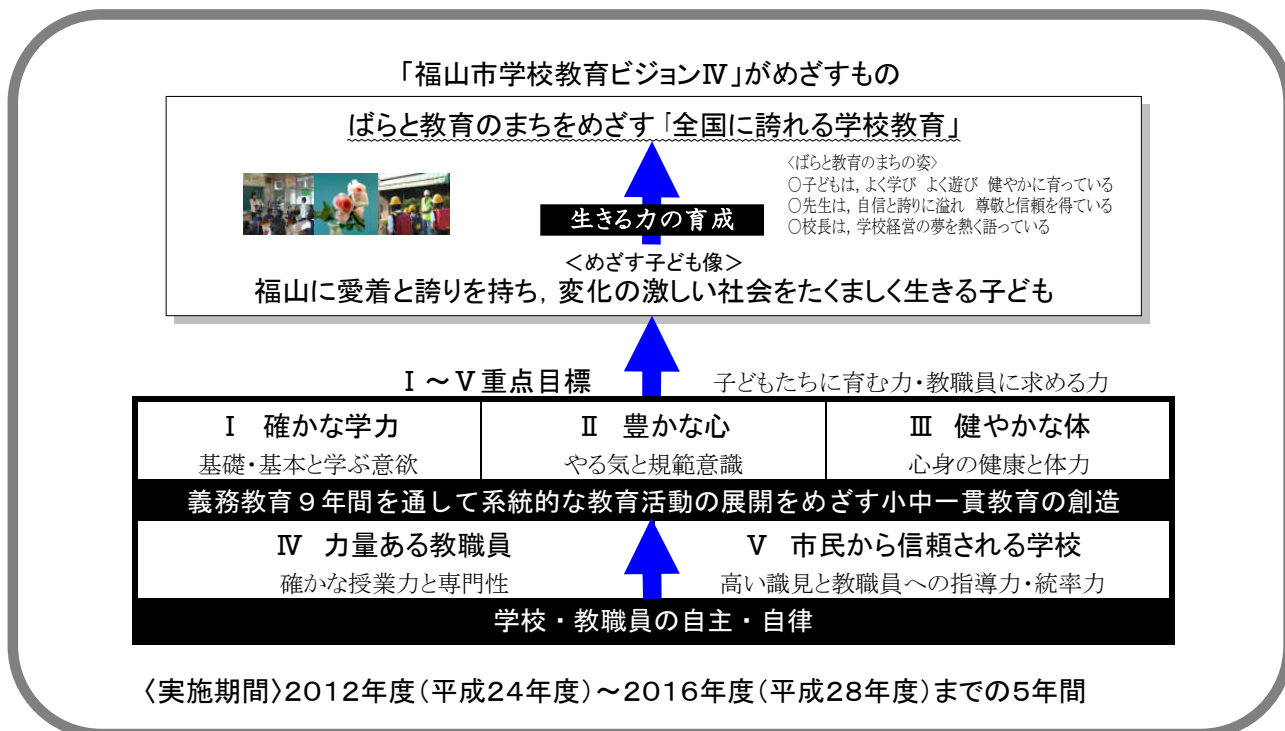
本市教育委員会は、2003年（平成15年）2月に、「福山市学校教育ビジョン」を策定し、「確かな学力」「豊かな心」「力量ある教職員」「市民から信頼される学校」を重点目標に、学校教育の基盤づくりに取り組みました。

2006年（平成18年）2月には、新たな教育課題である「ことばの教育」「キャリア教育」の推進を明示した「福山市学校教育ビジョンⅡ」を策定しました。各学校は、ビジョンに基づいて、自校の実態を踏まえた目標を掲げ、改善を図りながら取り組み、一定の成果を挙げました。

2009年（平成21年）2月には、次年度から新しい学習指導要領が先行実施されることを踏まえて、「福山市学校教育ビジョンⅢ」を策定しました。ビジョンⅢでは、ばらと教育のまちをめざす「全国水準の学校教育」を目標として、全国学力・学習状況調査等の分析から、学習指導の強化だけではなく、徳育や体育の課題について現状を踏まえた改善策を明らかにして、知・徳・体のバランスのとれた推進により、概ね「全国水準」を達成することができました。

今年度は、ビジョンⅢの最終年であり、今年度の小学校に続き次年度は中学校で新しい学習指導要領が全面実施されることから、この度「福山市学校教育ビジョンⅣ」を策定しました。

ビジョンⅣでは、ばらと教育のまちをめざす「全国に誇れる学校教育」を目標として掲げ、教職員・学校の自主・自律を推進力に、中学校区で小中学校が更に連携を強め、義務教育9年間を一体的に捉えた教育活動の展開をめざす小中一貫教育を創造していきます。実施期間は、2012年度（平成24年度）から2016年度（平成28年度）までの5年間、上位計画である「第四次福山市総合計画後期基本計画」と同一としています。



ばらと教育のまちをめざす「全国に誇れる学校教育」の実現に向け、関係者一丸となって取り組みますので、市民の皆様のご理解・ご協力をお願いします。

2012年（平成24年）2月

福山市学校教育ビジョンⅣ

[2012年度(平成24年度)~2016年度(平成28年度)]

(ばらと教育のまちの姿)

- 子どもは、よく学び よく遊び 健やかに育っている
- 先生は、自信と誇りに溢れ 尊敬と信頼を得ている
- 校長は、学校経営の夢を熱く語っている

ばらと教育のまちをめざす

生きる力

ビジョンⅢ <全国水準の学校教育>

○概ね全国水準・大きく改善	●残された主な課題	継続する仕組み	貫く考え方	重点目標<5> 子どもたちに育む力・教職員に求め
○小学校国語・算数 国調査で各教科AB問題全国平均超	●小学校国語・算数、中学校英語 課題の固定化	【実践的授業研究】 ・学力向上対策事業指定校の成果の活用 ・近隣校・教育研究団体と連携した授業研究の充実 ・3タイプの公開研究会の定着	義務教育9年間を一体的に捉えた教育活動	I 確かな学力 基礎・基本と学ぶ意欲
○中学校国語・数学 県調査で(国)県平均超、(数)ほぼ県平均	●「思考力・表現力」に関する意識 理由を考えたり相手に応じて説明したり していると思っている児童生徒の減少			II 豊かな心 やる気と規範意識
○中学校暴力行為発生率 全国平均以下(0.98倍)	●暴力行為 増加・低年齢化			III 健やかな体 心身の健康と体力
○小中学校不登校 全国平均の1.27倍から1.20倍に減	●不登校 低年齢化・中1で急増			IV 力量ある教職員 確かな授業力と専門性
○小5年男女、中2年女子の国調査合計点 全国平均超	●体力 小学校高学年から 中学校で低下			V 市民から信頼される学 高い識見と教職員への指導力
○朝ごはんを食べる率 小学校全国平均超、中学校ほぼ全国平均	●教職員の不祥事 体罰等の生起			
○受講者の研修内容の校内還元率 97%	●(児童生徒の)授業への期待度・満足度 低下	【学校支援地域本部】 ・教育活動全般でのボランティア 人材の更なる確保と組織化		
○学校評価による学校経営 自己申告書連鎖100% 外部評価評定3以上92%		【ふくやまスタンダード】 ・各中学校区スタンダードに 基づく取組みの徹底		
○学校支援地域本部の設置 全校		【ふくやま学校祭】 ・子どもたちの頑張っている 姿を知って・観て・応援し てもらう取組みの拡大		

“義務教育9年間を一体的に捉えた教育活動”

◆スケジュール◆

~2011(H23)	【1年目】2012(H24)	【2年目】2013(H25)	【3年目】
各学校での取組み	小 中 一 貫 教 育 カ リ キ ュ ラ ム		
中学校区での取組み	作成・一部実施	作成・実施	試行

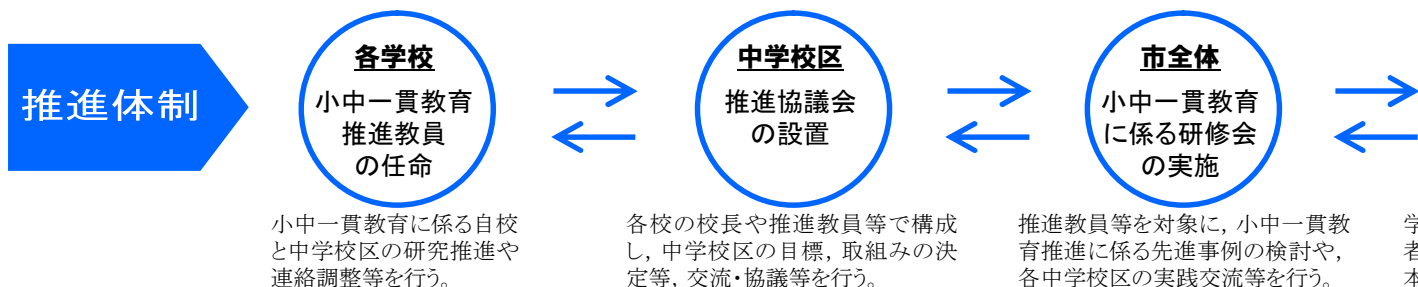
◆内容◆

小中一貫教育カリキュラムの作成・実施

各中学校区のこれまでの取組みや特色を活かし、中学校区で決めて、作成・実施する。

保・幼	前期<基礎・基本の習得期>				中期<学びの活用・充実期>			後期<進路>
	小 学 校				中 学 校			
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年
	繰り返し指導による生活と学習の基礎・基本の徹底				きめ細かな指導による小中の円滑な接続			生徒の主体的な希望する進路
	学級担任制				一部教科担任制・相互乗入			教科担任制
	○教科指導				○生徒指導			○行事・学活・部活
	ビジョンⅣの取組方針<10>を踏まえて				授業改善サイクル、家庭学習、検証問題、言語活動、集団づくり、生徒指導の三機能、スタンダード、体力、体育的行事、保健・安全、食育等			道徳教特別支援キャリア

推進力は ▶▶▶ 学校・教職員の自主・自律 ▶▶▶▶▶



「全国に誇れる学校教育」

7の育成

〈めざす子ども像〉 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子ども

ビジョンⅣ 〈全国に誇れる学校教育〉							
めざす力	取組方針(10)	具体的取組み	指標	現状値		目標値	
				小	中	小	中
徳 徳の育成 徳の推進 徳の継承 徳の発展 徳の継承 徳の発展 徳の継承 徳の発展 徳の継承 徳の発展	学習内容を確実に定着させる授業改善サイクルの徹底	「取組方針」を踏まえて、中学校区・各校で決めて取り組む。	「基礎・基本」定着状況調査 県平均以上の教科数（教科）	0/2	1/3	2/2	3/3
	思考力・判断力・表現力等を育成する言語活動の充実		“授業の内容が分かる”児童生徒率（%） 「基礎・基本」定着状況調査質問紙から	78.9	71.1	85.0	80.0
	望ましい集団づくりの推進		暴力行為発生率（%） *前年度数値	0.21	1.24	0.09	1.13
	組織的な指導体制の充実		不登校児童生徒率（%） *前年度数値	0.46	3.26	0.32	2.74
	発達段階に応じて高める体力を明確にした指導の充実		体力テストの 県平均以上の種目率（%） *前年度数値	52.1	14.8	67.7	50.0
	教科等と関連を持たせた健康に関する指導の充実		朝ごはんを食べる児童生徒率（%） 「基礎・基本」定着状況調査質問紙から	96.5	93.3	98.0	95.0
	授業力を高める組織的・計画的な研修の推進		学習動機・意欲の肯定的評価率（%） 「基礎・基本」定着状況調査質問紙から	82.6	77.1	85.0	80.0
	児童生徒の課題を克服する研修講座の充実		教職員の自己目標達成度 自己申告書(5段評価の平均)から *前年度数値	3.2	3.1	3.7	3.6
	教職員が元気で充実感を持てる学校経営の推進		保護者等の学校満足度（%） 学校が行う保護者・地域アンケートから *前年度数値	86.6		95.0	
	地域とともにある公立学校の強みを活かした取組みの推進		不祥事発生率（%） *前年度数値	0.11		0	

の展開をめざす小中一貫教育の創造

【2014(H26)】	【4年目】2015(H27)	【5年目】2016(H28)	2017(H29)~
行実施・改善	小中一貫教育の全面实施		

実現期)	高	大
3年		
学習による		
格の実現		
任制		
育		
教育		
教育		

推進のポイント

- 豊かな自然・穏やかな気候
- 伝統と文化・歴史的遺産
- 市内、全国・世界で活躍する福山出身の豊富な人材
- オンリーワン・ナンバーワン企業
- 福山市立大学
- 体育・文化等施設 等

福山の資源 結集

◆主な関連事業等◆

	保幼	小学校					中学校			高	大
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年		
小中一貫教育推進事業 小中一貫教育カリキュラムの作成・実施											
小中一貫教育推進懇話会 小中一貫教育に関する基本方針等の検討											
少人数指導推進支援事業 少人数指導に加え小中一貫教育推進教員の授業支援											
英語教育推進事業 小5・6、中1へのALTの重点派遣	幼										
教職員研修事業 校区小中学校が連携する研修講座等の実施											
地域学習活動支援事業(土曜チャレンジ教室) 退職教員等による小5・6、中1への学習指導											
国際交流推進事業 北京市との教育交流(生徒・教職員訪問団派遣等)											

市全体
小中一貫教育推進懇話会の設置

ワーキング部会
カリキュラム編成等

関係者や学識経験等で構成し、小中一貫教育の基本方針や推進方策等の検討を行う。



生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を確実に身に付けさせるとともに、これらを活用して課題を解決する力を育み、意欲的に学習に取り組む子どもを育成します。

指 標		現状値 2011 (H23)		目標値 2016 (H28)	
		小	中	小	中
「基礎・基本」定着状況調査	県平均以上の教科数（教科）	0/2	1/3	2/2	3/3
	“授業の内容が分かる”児童生徒率（%）	78.9	71.1	85.0	80.0

<取組方針1> 学習内容を確実に定着させる授業改善サイクルの徹底

◇ 学力調査結果を活用した授業改善

児童生徒に各教科の基礎・基本の力を確実に身に付けさせるため、学力調査結果の分析から、児童生徒のつまずきと教職員の指導上の課題を明らかにし、言語活動や学び直しの機会を設定する等改善ポイントを明確にした授業を実施します。

◇ 授業内容とつなぐ家庭学習

授業で学習した内容についての基礎的な能力の習熟や維持を図るため、家庭学習での適切な練習の機会を設けて計画的に指導をします。また、学習意欲を向上させるため、定期的な評価を工夫して行います。

◇ 各学年で実施する検証問題

当該学年の学習内容の定着状況を把握するため、各学年で検証問題を実施し、不十分な内容の確実な定着に取り組みます。残された課題は、確実に次の学年の授業に位置付けて指導します。また、中学校入学時は、小学校時の課題を踏まえた授業を実施します。

<取組方針2> 思考力・判断力・表現力等を育成する言語活動の充実

◇ 年間指導計画・単元計画への言語活動の位置付け

発達の段階に応じて、各教科、各単元で付ける力を系統的に身に付けさせるため、各教科等の目標と指導事項との関連を踏まえて、付ける力、指導場面、具体的な言語活動（記録・要約・説明・論述等）を意図的・計画的に設定し、単元構成や指導方法を工夫します。

◇ 各教科等で言語活動を充実させる授業

各教科等で習得した知識・技能を適切に活用し、思考力・判断力・表現力等を育成するため、各教科等の特質を踏まえて、相手意識や目的意識を持たせるとともに、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする授業を実施します。

◇ 学校生活全体における言語環境の整備

児童生徒に興味・関心を持たせながら言語活動を適正に行わせるために、教職員が正しい言語で話したり書いたりすること、掲示物や配付物において用語や文字を適正に使用すること等、学校生活全体における言語環境の整備を図ります。

基礎的な知識・技能, 思考力・判断力・表現力等, 学ぶ意欲を育成する

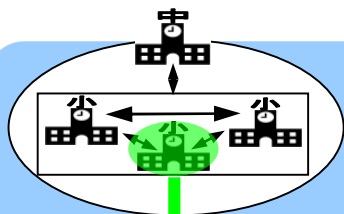
そのために

校区小中学校9年間で,



のめざす児童・生徒像を共有して

授業改善

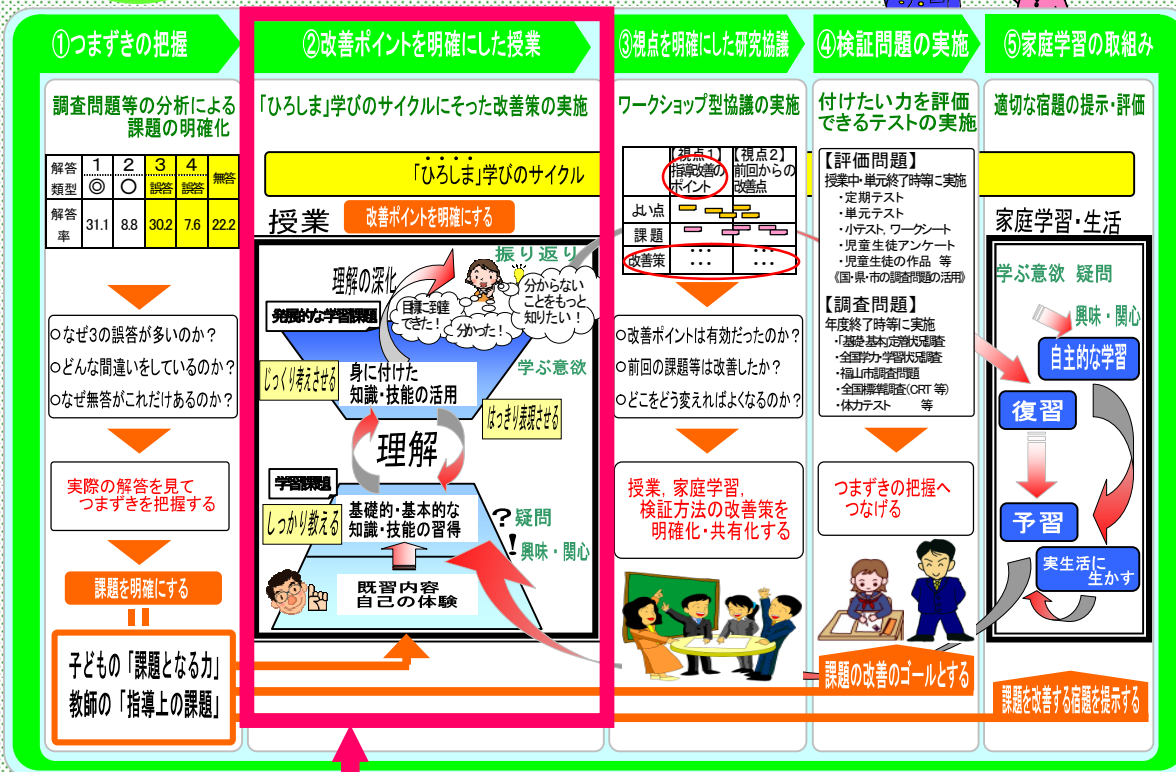
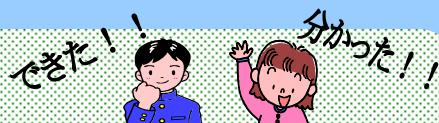


校区小中学校は, 連携して授業研究を積み重ねる

互いの授業を **みる** **みる** **みせる**

各学校

授業改善サイクルの徹底



言語活動の充実

言語活動の位置付け

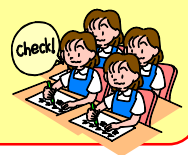
- ★教科等の目標を実現する手だて
- ★付ける力, 指導場面, 具体的な言語活動を意図的・計画的に設定
- ★単元構成や指導方法の工夫



実施・改善

言語活動を充実させる授業

- ★相手意識・目的意識
- ★学習の見通し
- ★学習したことの振り返り



言語環境の整備



- ★教職員の正しい言語での話や正確で丁寧な黒板の文字
- ★掲示物や配付物における用語や文字の適切な使用 等





児童生徒が現在及び将来において自己実現を図れるよう、望ましい集団づくりや組織的な指導体制の充実を通して、一人一人の自己指導能力を育成します。

指 標	現状値 2011 (H23)		目標値 2016 (H28)	
	小	中	小	中
暴力行為発生率 (%)	0.21	1.24	0.09	1.13
	0.53		0.40	
不登校児童生徒率 (%)	0.46	3.26	0.32	2.74
	1.32		1.14	

※ 暴力行為、不登校：現状値・目標値は前年度の数値

<取組方針3> 望ましい集団づくりの推進

◇ リーダーを育成し仲間と高まり合う学級活動

目標に向かって共に行動ができる集団や自治力が高まった集団をつくるため、班長や委員・係等への指導を通してリーダーを育成します。集団の一員としてよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度を育成する学級活動に取り組みます。

◇ 自己の成長を実感できる道德教育

児童生徒の道德性を育成するため、学校の教育活動全体で、多様な道德的価値について感じたり考えたりする取組みを行います。要としての道德の時間では、取組みから学んだことを人間としての在り方や生き方という視点からとらえなおし、自分のものとして発展させていく授業づくりを行います。

◇ 共に学び合う授業づくり

学習指導を通して望ましい人間関係を形成するため、一斉学習やグループ学習で学び合う場を積極的につくります。自分と違った見方や考えなどを認めたり、学習に遅れがちな友達やつまづいている友達を支えたりするなど、互いに協力して学び合う授業づくりを行います。

<取組方針4> 組織的な指導体制の充実

◇ 方針と基準を明確にした生徒指導

児童生徒に規範意識を身に付けさせるため、明確な指導方針と基準を定め、丁寧で粘り強く取り組みます。暴力行為や授業妨害については、別室指導等の特別な指導を行うとともに、対教師暴力については、関係機関と連携するなど毅然とした対応をします。また、不登校やいじめの未然防止に向け、児童生徒一人一人の情報を共有し教育相談を充実します。

◇ 系統的・計画的なキャリア教育

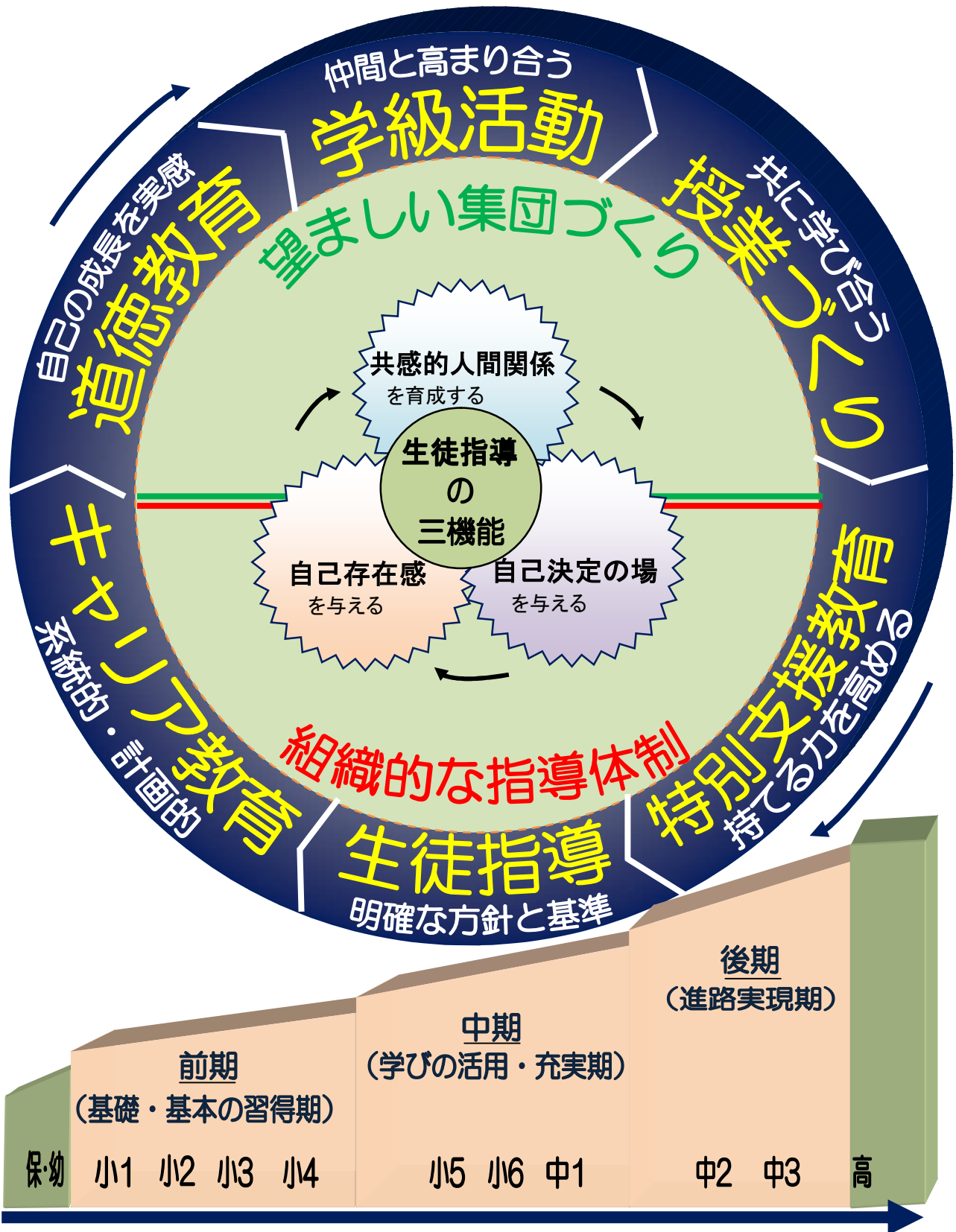
児童生徒一人一人のキャリア発達を促すため、進路指導主事や小中一貫教育推進教員等を中心とした指導体制の充実を図ります。また、指標である“中学校区スタンダード”や成長の記録を綴った“キャリアノート”を活用し、発達段階に応じた教育を推進します。

◇ 持てる力を高める特別支援教育

特別な支援が必要な児童生徒が持てる力を高め、生活や学習上の困難さを改善・克服するため、一人一人の特性を把握し、個別の教育支援計画等を活用して組織的な指導を行います。必要に応じてスクールカウンセラーや専門機関と連携した支援を行います。

児童生徒の自己指導能力を育成する

そのために





生涯にわたって心身の健康と体力を保持増進するよう、9年間を一体的に捉えた取組みを通して、人間のあらゆる活動の源である体力や健康的な生活習慣を身に付けた子どもを育成します。

指 標	現状値 2011 (H23)		目標値 2016 (H28)	
	小	中	小	中
体力テストの県平均以上の種目率 (%)	52.1	14.8	67.7	50.0
	38.7		61.3	
朝ごはんを食べる児童生徒率 (%)	96.5	93.3	98.0	95.0
	95.1		96.6	

※ 体力テスト:現状値・目標値は前年度の数値 朝ごはん:『基礎・基本』定着状況調査]児童生徒質問紙の回答

＜取組方針5＞ 発達段階に応じて高める体力を明確にした指導の充実

◇ 魅力ある体育・保健体育科授業

発達段階に応じた体力を身に付けさせるため、校区小中学校で9年間の指導計画を作成するなど、系統的に取り組めます。また、研修の充実や中学校の保健体育科教員による小学生への指導等の研究を進め、指導方法の工夫・改善に取り組めます。

◇ 学校教育活動全体を通して行う体力向上

児童生徒に運動の楽しさや喜びを実感させるため、休憩時間等を活用した運動遊びの奨励や縄跳び・水泳検定等に段階的な到達目標を設定するなど、多様な教育活動に取り組めます。

◇ 児童生徒が主体的に行う体育的な活動

児童生徒が意欲的に運動に取り組むため、児童生徒自らが体育的行事の企画・運営に関わったり、部活動等における目標の設定や練習計画を作成したりするなど、自主的な活動を促す指導・支援を行います。

＜取組方針6＞ 教科等と関連を持たせた健康に関する指導の充実

◇ 学校教育活動全体で行う保健・安全学習

健康・安全についての理解を深め、生涯を通じて自らの健康を管理し、災害時においても適切に判断し行動する力を育成するため、学校教育活動全体を通じて保健・安全学習に取り組むとともに、具体的な場面を想定した避難訓練を行います。

◇ 学校給食等を活用した系統的な食に関する指導

児童生徒の健全な食生活を実現し、健康で豊かな人間形成を図るため、年間指導計画に基づいた食に関する指導を推進し、学校給食や弁当等を教材として、望ましい栄養や食事のとり方への理解、感謝の心等を育むよう取り組めます。

◇ 家庭と連携して定着させる基本的な生活習慣

健康的な生活習慣を身に付けさせるため、保健指導等を計画的に実施し、児童生徒に基本的な生活習慣の大切さを理解させます。また、指標である“中学校区スタンダード”を活用し、学校と家庭が連携・協力して、朝食の摂取、早寝、早起きの習慣化、適度な運動の実施等の定着に取り組めます。

体力や健康的な生活習慣を身に付けた子どもを育成する

そのために

小中連携による9年間を見通した系統的な取組み

前期(小1～小4)
(基礎・基本の習得期)

中期(小5～中1)
(学びの活用・充実期)

後期(中2～中3)
(進路実現期)

体

様々な運動を行うことの楽しさ・喜びを知る。

健

身近な生活における健康・安全について知る。

体

全力を出して運動に取り組む態度を身に付ける。

健

健康で安全な生活を営む資質や能力を身に付ける。

体

自ら進んで運動に親しむ資質や能力を身に付ける。

健

自主的に健康な生活を実践できる資質や能力を身に付ける。

体力に関する指導

発達段階に応じて高める体力を明確にした指導

- 校区小中学校で指導計画を作成するなどの系統的な取組み
- 指導方法の工夫・改善



- 児童生徒による体育的行事の企画・運営
- 練習計画の作成等, 児童生徒の自主的な部活動の取組み

反映 ↑

体力テスト

↓ 検証

魅力ある 授業・各活動・学校行事



学校

**連携
協力**

検証 ↓

生活アンケート

↑ 反映

体を動かす習慣づくり

- 外遊びや日常的なスポーツのすすめ
- 体力の重要性の認識 等



家庭

基本的な生活習慣の定着

- 朝食摂取(バランスのとれた食事)
- 早寝, 早起きの習慣化 等



中学校区スタンダード

Ⅳ 力量ある教職員

～確かな授業力と専門性～

学校で実施する研修や、福山市研修センター等で実施する研修講座の充実を通して、確かな授業力と専門性を有した教職員を育成します。

指 標	現状値 2011 (H23)		目標値 2016 (H28)	
	小	中	小	中
児童生徒の学習動機・意欲の肯定的評価率 (%)	82.6	77.1	85.0	80.0
教職員の自己目標達成度	3.2	3.1	3.7	3.6

※児童生徒：『基礎・基本』定着状況調査「児童生徒質問紙」の回答 ※教職員：自己申告書の5段階評価の平均 現状値・目標値は前年度の数値

<取組方針7> 授業力を高める組織的・計画的な研修の推進

◇ 校区小中学校が連携して実施する合同研修

発達段階に応じて系統的に教科・領域等の指導を行うため、校区小中学校が合同で研修を行い、学習指導や生徒指導の取組みを相互に提案し、指導方法の改善等を協議したり、教育研究団体と連携した研修を実施したりします。

◇ 全教科・領域等で“授業改善サイクル”を推進する校内研修

課題を焦点化して確実に改善するため、“授業改善サイクル”（学力調査問題結果等の分析による課題把握→改善ポイントを明確にした授業→視点を明確にした研究協議→検証問題の実施→課題を改善する家庭学習）を、全教科・領域等で推進します。

◇ 福山市立大学教員の専門性を活用する授業改善

児童生徒の学習意欲を向上させるため、福山市立大学教員が理科の実験等で直接児童生徒を指導する“出前授業”や、幼小中高等学校の教職員が大学へ行き、指導方法や教材開発等について指導を受けるなど、地元大学の利点を活かした授業改善に取り組みます。

<取組方針8> 児童生徒の課題を克服する研修講座の充実

◇ 校区小中学校の連携を強化する管理職研修・主任等研修

学力や生徒指導上の課題に対する改善と未然防止のため、小中一貫教育を実施している他都市の先進的な事例や、本市の取組みを交流・検討するなど、校区小中学校の連携を強化する管理職研修や主任等研修を実施します。

◇ 学力課題の改善に焦点を当てた指定研修

学力調査結果の分析から明らかになった固定化している課題等を改善するため、指定研修として、小学校の高学年担任と中学校国語・数学・英語の教科担任を対象にした連続講座を実施します。

◇ 福山市立大学の機能を活用する経験者研修・教員長期研修

教職員の各ライフステージで求められる能力や技能を向上させるため、福山市立大学教員を講師としたり、施設を活用したりする研修講座を実施します。特に、教員長期研修は、6か月間、研究生として大学に位置付けて実施します。

確かな授業力と専門性を身に付ける

そのために

授業力を高める組織的・計画的な研修

児童生徒の課題を克服する研修講座

校区小中学校の連携

● 合同研修

校区小中学校が、学習指導や生徒指導の取組みを相互に提案し、指導方法の改善等を協議したり、教育研究団体と連携した研修を実施したりする。



● 管理職研修・主任等研修

小中一貫教育を実施している他都市の先進的な事例や、本市の取組みを交流・検討する。



課題の焦点化と改善

● 校内研修

① 学力調査問題結果等の分析による課題把握

② 改善ポイントを明確にした授業

⑤ 課題を改善する
家庭学習

“授業改善サイクル”
を全教科・領域等で
推進する。

④ 検証問題の実施

③ 視点を明確にした研究協議

● 指定研修

小学校の高学年担任と中学校国語・数学・英語の教科担任を対象にした連続講座を実施する。



福山市立大学の活用

● 出前授業

大学教員が理科の実験等で直接児童生徒を指導する。



● 大学教員からの指導

幼小中高等学校の教職員が大学へ行き、指導方法や教材開発等について指導を受ける。

● 経験者研修・教員長期研修

大学教員を講師としたり、施設を活用したりする研修講座を実施する。



校長の高い識見と教職員への指導力・統率力により、教職員が元気で子どもと向き合える学校経営に地域の支援を受けながら取り組み、市民から信頼される学校をつくります。

指 標	現状値 2011 (H23)	目標値 2016 (H28)
保護者等の学校満足度 (%)	86.6	95.0
不祥事発生率 (%)	0.11	0

※ 学校満足度:学校が行う保護者・地域アンケートによる 各現状値・目標値は前年度数値

<取組方針 9> 教職員が元気で充実感を持てる学校経営の推進

◇ 教育公務員としての使命感と自覚を培う人材育成

教職員が教育公務員として使命と職責を自覚し、自信と誇りを持って、元気に子どもと向き合うため、校長は、実感を伴った研修を計画的に実施するとともに、日々の声掛けや面談等を通して、校長と職員、職員同士の信頼関係を築く指導・助言を行います。

◇ 教職員個々の適性を活かし引き出す組織体制づくり

教職員が意欲を持って職務を遂行し、自らの持てる力を最大限に発揮できるようにするため、校長は、授業観察や職員面談を丁寧に行い、教職員個々の力量や専門性など適性を十分に把握し、活かし引き出す組織体制づくりに努めます。

◇ 子どもと向き合う時間を増やす業務改善

教職員が心身共に余裕を持って子どもと向き合う時間を増やすため、校長は、会議や研修等の運営方法や情報の伝達・記録方法の見直し、蓄積情報の整理・共有化、主任等を活用したスケジュール管理の徹底等、積極的に業務改善に取り組みます。

<取組方針 10> 地域とともにある公立学校の強みを活かした取組みの推進

◇ 教育活動の質を高めるスクールサポートボランティア

地域の教育力を活かして、児童生徒の学習意欲を向上させるため、多様な経験や知識を持つ地域の方々を学校支援地域本部に集約するなど、更なるボランティアの組織化に取り組みます。また、子どもの命を守るため、交通指導をはじめ安全・防災体制を、地域の協力を得て整えます。

◇ 地域に学ぶ体験活動

児童生徒に社会の一員であることを実感させるため、地域での体験活動を通して、人と人とのつながりや年齢を超えた広がりの中で、学ぶこと・働くこと・生きることの意味や将来について考えさせます。また、児童生徒ががんばる姿を見せることで、地域の元気につながります。

◇ 効果的に発信する学校情報

学校と地域がこれまで以上につながり、「地域の学校」としての位置を確かなものにするため、子どもたちの活動の様子、学校の取組みや現状、学校が求めている支援等、時期を逃さず、学校便りやホームページ等により、広く地域に情報を発信します。

市民から信頼される学校をつくる

そのために

地 域

福山に生まれて、
この地域で大きくなって、
この学校で・この先生に学んで、

良かった



子どもの命を守る

安心

交通指導をはじめ
安全・防災体制を整える

中学校区

元気

教職員

学 校

目標を共有する
めざす子ども像を描く

9年間を一体的に捉える
一貫教育カリキュラムをつくる

改善へ知恵と力を結集する
共に考え学びあう

教職員の使命感と自覚を培う

人材育成

教職員の適性を活かし引き出す

組織体制づくり

教職員が子どもと向き合う時間を増やす

業務改善

教育活動の質を高める
学校支援地域本部に集う

地域の力が子どもの元気に
子どもの元気が地域の元気に
地域に学ぶ

「地域の学校」になる
情報を発信する

義務教育9年間の責任を果たす

小中連携

教職員が元気で子どもと向き合う

学校経営

公立学校の強みを生かす

地域連携

校長のリーダーシップ